

# 令和3年度 みすず幼稚園 自己点検の結果

■各ご質問項目について、4段階の評価を記入欄に記入して下さい。

《評価基準》

・十分にできている  
・とてもそう思う

4 ・ 3 ・ 2 ・ 1

・できていない  
・そう思わない

評価分類	評価項目	具体的確認項目	評価	
I. 教育内容	教育方針・目標	1 教育方針・目標は、園の特色を生かしたものになっている。	3.5	
		2 園の教育方針や目標を理解し、共感している。	3.3	
		3 園の方針や目標、園長の想いなどについて、教職員間で話し合い共通理解を深めている。	3.3	
		4 園の目指す幼児の姿を具体的にイメージできる。	3.3	
		5 園の方針や目標について、保護者の理解を促すよう取り組んでいる。	3.2	
	幼稚園教育要領の理解	6 幼稚園教育要領について、教師間で話し合うなど、理解を深めるための取り組みを行っている。	3.2	
		教育課程の編成	7 園の教育課程は、幼稚園教育要領の精神を踏まえ、園の教育方針にしたがって編成されている。	3.5
			8 園の教育課程は、園長が中心となり、教職員と協力し合って編成されている。	3.7
	指導計画の作成と評価	9 園の教育課程は、社会状況や幼児の実態、地域性などを考慮しながら、必要に応じて見直しが行われている。	3.3	
		10 指導計画は、教育要領、教育課程、幼児の実態などをもとに考えて作成している。	3.7	
		11 指導計画は幼児の興味や関心、これまでの生活の様子、予想されるこれからの生活などを考慮して作成している。	3.5	
		12 自分の保育と計画の評価・反省について、次の保育と計画に生かせるよう取り組んでいる。	3.7	
		13 長期の指導計画は、マンネリ化しないよう見直しを行い、幼児の実態や周囲の状況の変化に対応できるように作成している。	3.3	
		14 短期の指導計画は幼児の実態に合わせて、自由に変更できるような順応性のあるものになっている。	3.5	
		15 教師間で互いの保育について話し合い、評価・反省をして次の保育に生かしている。	3.5	
	教育内容の保護者への周知	16 互いに保育を見せあって、検討し、評価・反省を加え、幼児の生活と自らの保育につなげている。	2.8	
		17 個々の行事について、幼児の発達を考えながら実施し、子どもの実態やねらい等について教職員と話し合い、見直しを行っている。	3.2	
		18 園の教育・保育のねらいや内容について、保護者に分かりやすく伝えるよう工夫している。	3.0	
		教育環境の構成	19 子どもが安全で心地よく、幼児期にふさわしい生活が送れるような環境を整えている。	3.5
			20 幼児がそれぞれの興味や関心、能力に応じて、全身を使って活動することができる環境を整えている。	3.3
			21 幼児を温かく受け入れる環境をつくり、人とかかわる力が育つような配慮をしている。	3.8
			22 幼児が身近な自然や社会とかかわることを通して学ぶ環境を整えている。	3.5
			23 幼児がさまざまな表現を楽しみ、表現する意欲を十分発揮させることができるような環境を整えている。	3.3
			24 教師の願いや意図を持って環境構成をしている。	3.8
			25 幼児の発達段階に即した遊具や用具、素材などを用意している。	3.7
			26 幼児の活動がより豊かになるように、活動の展開に応じて環境を再構成している。	3.5
		27 異年齢の幼児が自然に交流できるような環境構成をしている。	3.5	
		28 子どもがさまざまな異文化(国、人種、文化、言葉、行動等)を受け入れる配慮や環境、交流等を整備している。	2.5	
	幼児のみと理解	29 幼児の話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサインを受け止めるよう努めている。	3.5	
		30 一人の幼児をじっくりと見ながら、周囲にも目を配ることができる。	3.2	
		31 個々の幼児の発達の姿や課題について見通しを持って理解できる。	3.0	
		32 幼児たちがいま興味や関心を持っていることが分かる。	3.5	
		33 幼児を自分の一方的な感じ方や考え方で決めつけないようにしている。	3.3	
		34 幼児の理解のために保護者と話し合う機会をもっている。	3.0	
		35 幼児の姿を、家庭での生活をふまえて理解している。	3.0	
		36 幼児の姿を多面的にとらえることができる。	3.0	
指導とかわかり	37 幼児に合わせて同じように動いてみたり、同じ目線にたつてものを見つめたりしている。	3.5		
	38 一人ひとりの幼児の思いを把握して寄り添いながらかわっている。	3.3		
	39 「先生のようにやってみたい」と幼児が思うような、モデルとしての姿を心がけている。	3.3		
	40 教師らしい品位ある言葉、正しい日本語の用法を心がけている。	3.3		
	41 善悪の判断、いたわり、思いやりなどの道徳性を培う上でもモデルとなっている。	3.2		
	42 幼児が遊びを深めていくためのヒントやアイデアを提供している。	3.2		
	43 幼児が行き詰っているとときに、適切な援助をしている。	3.0		
	44 幼児が自ら考えたり工夫したりできるような見守り方をしている。	3.2		
II. 教職員体制の充実	45 幼児のことについて常に教職員間で話し合い、クラス、学年をこえて情報を共有している。	3.2		
	46 教職員全員が、すべての園児についてある程度理解しているようさまざまな工夫をしている。	3.2		
	47 個々の幼児について、教職員で話し合う場を、定期的かつ必要に応じて持つことができる体制が整備され、機能している。	3.2		
	48 指導上配慮を必要とする幼児については、教職員全体で特によ話し合い、共通理解をもって対応している。	3.3		
研修・研究への意欲・態度	49 研修会や研究会には自己課題をもって進んで参加している。	3.2		
	50 研修会や研究会に参加する場合は事前にその内容を確認したり、自分なりの考えをまとめている。	2.7		
	51 研修会や研究会では活発に発言している。	3.0		
	52 専門書や専門雑誌を読んでいる。	2.7		
	53 自分の保育については自己課題をもって計画と反省を行っている。	3.3		

III. 研修と研究	研修・研究への取組み	54	自分の保育のあり方や悩みについて、他の教師や主任、園長と話し合うことができる。	3.2
		55	自園のテーマや重点項目等を定め、計画的に研修・研究が実施されている。	3.0
		56	園内研修を一人ひとりの教職員の育成の場と捉え、特性を生かした園内研修・研究が計画的に実施されている。	3.0
		57	研修を終了した教職員が、研修内容を発表する機会を設けるなど、成果を共有する仕組みがあり、機能している。	3.7
		58	教育内容の質の向上や改善のために、園長や教職員で話し合うなどの取組みを行っている。	3.2
		59	個々の教職員が自分の課題を把握し、その課題を達成できるような指導体制があり、機能している。	2.8
		60	幼児の体力づくり、運動機能のバランスのとれた発育・発達を促す体育あそびやその指導方法を研究している。	3.2
		61	アレルギー、自立の遅れなど、最近多くみられる問題について理解するよう取り組んでいる。	3.5
		62	子どもひとりとその内面理解について、研修・研究を行っている。	3.3
		63	指導計画の作成や記録の取り方、考察のあり方について、研修・研究を行っている。	3.0
		64	指導とかかわりのあり方について、研修・研究を行っている。	3.0
		65	保育者同士の協力・連携の在り方について、研修・研究を行っている。	2.8
		66	保護者への対応のあり方について、研修・研究を行っている。	3.2
		67	保育専門機関と連携をはかりながら、障害のある幼児に対する保育のあり方について研修・研究を行っている。	3.0
		68	園の道具や教材のさまざまな利用方法について研究している。	3.0
		IV. 安全・衛生管理	安全への配慮	69
70	けがや事故には特に気をつけ、年齢に応じた適切な環境構成や言葉かけを行っている。			3.3
71	危険が予測される場合は、幼児たちと一緒に見たり、考えたりなどして、安全な使い方や遊び方について気付くことができるようにしている。			3.5
72	クラス中の水道付近の清掃や、換気、採光、室温などに気をつけている。			3.0
73	トイレの清掃やトイレの使い方について配慮し、幼児にも正しい使い方を具体的に示している。			3.0
安全管理体制の整備	74		緊急時(事故やけが、感染症の発生時など)の対応手順について、全教職員が共通理解をもてるよう取り組んでいる。	3.3
	75		事故の発生を未然に防ぐために、園内の危険箇所や危険な遊び方などについて、教職員間で話し合う仕組みが機能している。	3.2
	76		水周り等の衛生管理について、その手順やルールが定められている。	2.8
	77		食中毒の発生時における対応手順を理解している。	3.0
	78		子どもたちに対する安全教育を実施している。	3.2
	79		施設のハード・ソフト両面から、適切な防犯体制を整えている。	2.8
V. 保護者との連携	情報の発信と受信	80	施設・設備は常に整備され、室内は清潔で整理整頓が行き届いている。	2.8
		81	児童虐待の発見やその対応等についての手順や方法を理解している。	3.2
		82	個々の子どもの様子は、直接話をしたり、電話、連絡帳などを使って伝え合っている。	3.7
		83	家庭の状況や保護者との情報交換の内容を、必要に応じて適切に記録している。	3.5
		84	保育中のけがや病気は、速やかに保護者へ連絡を入れ、状況や原因を説明の上、通院するなどの対応をしている。	3.5
	協力と支援	85	保護者から意見や提案、クレーム等を受けた際の対応手順を理解し、速やかに対応している。	3.5
		86	保護者や利用者を対象とするアンケートを実施し、その結果を、今後の保育の参考として活用している。	3.7
		87	保育参観や保護者会などを開き、子どもについて、保育について、家庭でのあり方について、共通理解を得るよう取り組んでいる。	3.3
		88	子どもの食生活を充実させるために、家庭と適切に連携している。	3.2
		89	個々の子どもの情報は口外していない。	3.8
VI. 地域との連携	守秘義務の遵守	90	保護者、家族の情報は口外していない。	3.8
		91	子どものプライバシー保護について、規定・マニュアル等が整備され、基本的な知識や姿勢・意識が教職員に周知されている。	3.7
		92	地域の人々と親しくあいさつや会話を交わしている。	3.7
	地域への開放と支援	93	散歩や公共施設等において、高齢者や地域の人などのかかわりを持ち、愛情や信頼感を持てるよう取り組んでいる。	3.3
		94	地域の自然や施設の場所、交通機関、主な行事等について理解している。	3.2
		95	地域の自然や機関を指導計画の中で位置づけて活用している。	2.7
		96	地域開放や子育て支援のあり方について、教職員間で話し合っている。	2.8
		97	園が持つ専門的な技術や情報を、地域に開放・提供している。	2.8
		98	地域の子育てセンターとしての機能を発揮している。	2.7
		99	園の役割や機能を達成するために必要となる、地域のさまざまな機関や団体と適切に連携している。	3.0
100	小学校の教育内容について理解しようとしている。	3.2		

## R3年度総括 今後の課題について

上記のアンケート結果を元に教職員で、園の課題について話し合った。主な意見として出てきた内容として、  
 ○「学年ごとの連携だけでなく教職員みんなが協力できる体制、情報の共有を図っていこう。まだまだ効率よく行える点があると思う。」  
 ○「引き続き、業務の効率化について、皆で検討し、残業や持ち帰りの仕事をなるべく減らす(地域の行事への参加の見直し)みこし、ドカンジョ」  
 ○「自然保育認定園としてまた、子どもの育ちのためにりんごの森等環境をもっと活かした保育を組み立てられるように勉強したい」  
 ○「担当業務を改めて見直し、職員でペアを作り、協力しあい人材育成に努めたい」

## R4年度に取り組む重点課題

NO	評価項目	取組み内容	具体的な取組計画
1	教育内容	自然体験の充実 幼少の連携の充実	・信州型自然保育認定園として引き続き週5時間以上の体験型自然保育 ・小学校との円滑な接続のため交流会及び小学校教員による幼稚園研修の受け入れ
		種のある環境づくり(協働体)	

2	教職員の連携	<small>朝) (ひとりでよく働ける職場づくり)</small>	年度初めに、外部講師をお招きして、現在の園内の問題点を洗い出し、その解決策を検討し、実行していく。 まずは教職員がお互いに気軽に話ができる環境を作る。行事、学期の節目での慰労会等をうまく活用する
3	教育内容 ・ 安全衛生	<small>動物とのふれあい教育の見直し</small>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当番活動やふれあい活動の中で、子どもの育ちにつながる教育を見直す</li> <li>・清潔に保つ努力をする。具体的には、えさの管理場所・方法・清掃が適切に行われているかを見直す・徹底する。</li> </ul>